# 『新編　一宮町史』編さん事業の活動報告

## No.2　本土決戦準備戦跡調査（近現代）

町では、令和4年度より10年計画で新たな町史『新編　一宮町史』の編さん事業を行っています。

旧『一宮町史』は、昭和38年（1964）に刊行され、刊行後60年が経過しています。

地域のアイデンティティである郷土の歴史を後世に伝えていくべく、編さん委員会を中心に調査活動を進めています。

このコーナーでは不定期に、その調査活動を紹介していきます。今回は戦争遺跡の調査を紹介します。

▲二十八糎榴弾砲砲座跡（憩いの森）

2025年は戦後80年の節目の年です。

「一宮町と戦争」という観点から考えると、①風船爆弾、②陸軍廠舎、③一宮町事件、④本土決戦準備戦跡、などが代表的なものとして挙げられます。詳細は「広報いちのみや」令和2年7月号、8月号「戦後75年　一宮町と太平洋戦争（上）（下）」をご覧ください。

さて、現在教育委員会では町史編さん事業の一環として、立教大学探検部と協力し、町内の戦争遺跡の調査を行っています。終戦間際の昭和19年（1944）末頃より、九十九里浜に連合軍が上陸してくることを想定して、この地域では陣地が構築されます。タイトルにもありますが、町ではこれらの戦争遺跡を「本土決戦準備戦跡」と呼称しています。九十九里地域では東金市の「御殿山砲兵観測所」が有名な準備戦跡でしょうか。

一宮地域には山間部に第426連隊指揮所壕、二十八糎榴弾砲砲座、十五糎加農砲掩体などが、地元の人々の勤労奉仕により築かれました。

これまで町では存在は認識していましたが、本格的な調査は行っていませんでした。

現在、同大学探検部を中心に、①戦跡の所在調査、②測量調査、③3D測量調査を行い、調査データを蓄積しています。

これらの戦跡は戦後80年が経過したこともあり、経年により一部が崩落している箇所もあるため、安全に配慮しながら調査を進めています。

この調査成果は、本年度刊行する『一宮町歴史叢書第3集』で紹介を予定しています。また、夏頃には報告会の開催を予定しています。広報などでお知らせしますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

▲調査風景

▲重機関銃陣地壕　3D測量データ

※壕などは私有地のため、立入はできません。調査は所有者の許可を得て行っています。

※戦争遺跡や資料についてお心当たりのある方はぜひ、ご一報ください。

（学芸員・江澤一樹）

【問合せ】教育課　☎（42）1416